

第1章. 麻機遊水地保全活用行動計画の概要 P1~3

計画の目的

麻機遊水地の治水機能を確保しつつ、自然再生推進法に基づく自然再生を実施し、かつ当該地域の活性化を図るため、官民一体となった総合的な取組を推進していく。

計画の位置づけ

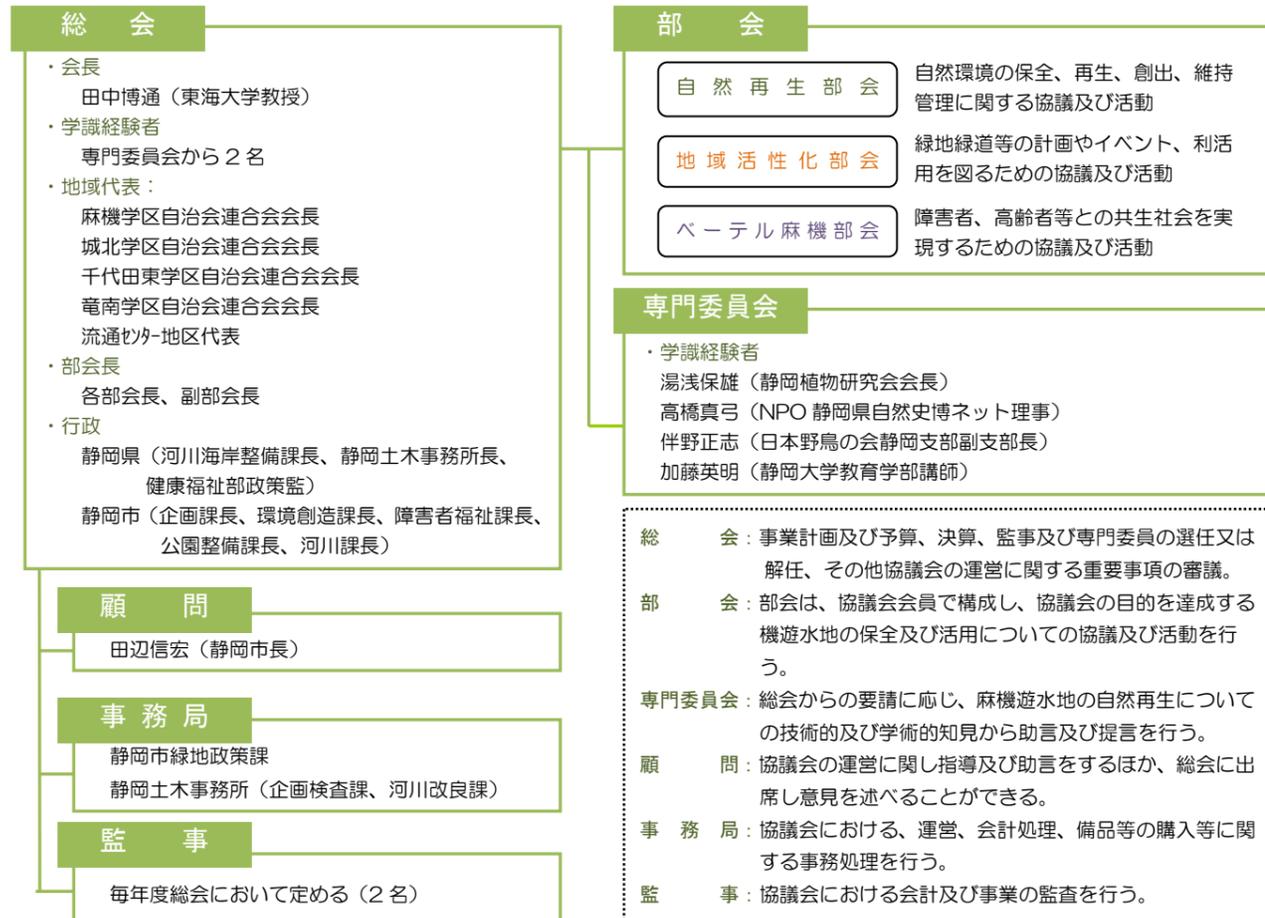
巴川流域麻機遊水地自然再生協議会で策定した「自然再生全体構想」と、市が策定した「麻機遊水地地区ランドデザイン」の双方を実現するために、協議会が推進していくための計画。

計画の年次目標

短期、中期、長期計画を設定し、短期、中期計画では実施可能な取組みから着手し、遊水地全体に取組み範囲を広げていく。また、長期的には取組みを遊水地周辺地域まで広げ、自然環境の再生、連続性の確保を図るとともに、遊水地の自然環境を活かした地域の活性化につなげていく。

第2章. 実施者の名称と実施者の属する協議会 P4

本事業は、「自然再生部会」、「地域活性化部会」、「ベーター麻機部会」と「行政」が連携し、取組んでいくものとする。



第3章. 自然再生の対象区域と麻機遊水地の概要 P5~27

対象区域

自然再生の対象区域は、麻機遊水地第1工区、第2-1工区、第3工区、第4工区と国道1号静岡バイパスより上流部の巴川とする。



- 治水** 麻機遊水地は、巴川下流部の流量を軽減し、氾濫防止機能を発揮している。
- 公園** 第1工区を「あさはた緑地」、第3工区を「浅畑緑地」として都市計画決定している。
- 歴史** かつては浅畑沼や小沼などの沼が存在していたが、土地改良事業で水田として整備された。
- 自然** 土中の埋土種子から多くの希少植物が蘇り、さらには池沼部が形成されたことで、多くの動植物が生息・生育する良好な湿地環境が再生した。
- 利用** 市民の自然観察、散策、スポーツ、レジャー、美化活動、自然資源の利活用等、多目的に利用されている。



自然環境の課題

- 植生遷移や外来植物、繁殖力の強い植物の繁茂により、開放水面の減少や湿地の乾燥化など、多様性のある湿地環境が消失している。
- 外来種等の侵入により、在来生物の生息環境が悪化及び、在来生物が減少している。
- 流入水が少ないことや腐植物の堆積等による水質悪化が懸念されている。
- ゴミの不法投棄、犬のフンの放置、外来魚の放流など、利用者のマナーが悪化している。

協議会の課題

- 麻機の魅力が十分に知られていない
- これまで各種取組みを行っているが、人手不足、人材不足等で、動植物の生息・生育状況や水質、利用者数等に関するデータの蓄積ができていない。
- 協議会の活動経費や人手不足により、自然再生事業実施計画で計画した取組みが実行できない。

第4章. 上位計画、関連計画の概要 P28~36

<協議会の策定計画>

「巴川流域麻機遊水地自然再生全体構想」、「巴川流域麻機遊水地自然再生事業実施計画」

<静岡県の策定計画>

「巴川水系河川整備基本方針」、「巴川水系河川整備計画」

<静岡市の策定計画>

「第3次静岡市総合計画」、「都市計画マスタープラン」、「みどりの基本計画」、「静岡市生物多様性地域戦略」、「麻機遊水地地区ランドデザイン」

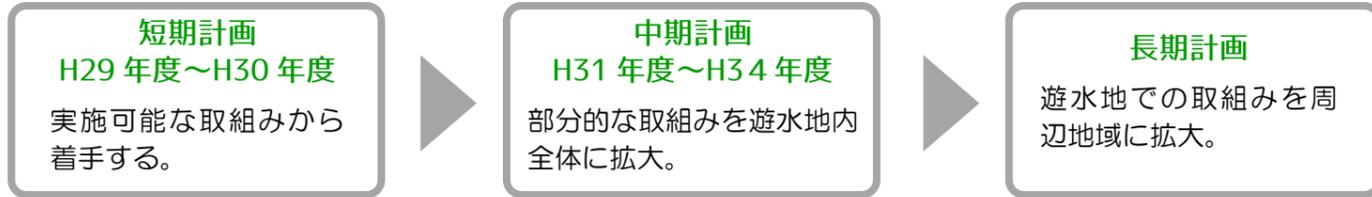
上位計画や関連計画、現状の課題等を踏まえ、「麻機遊水地保全活用行動計画」を作成

第5章. 麻機遊水地保全活用行動計画

P37~65

短期、中期、長期計画

行動計画では、短期計画と中期計画を設定し、官民が連携しながら順応的に自然再生全体構想やランドデザインの目標を達成するために取組みを進めていくものとする。長期計画については、取組み範囲を遊水地からその周辺部にも広げ、民間主導で遊水地と地域とが一体となった取組みを進めていくことを目標とする。



短期、中期計画の取組み内容

良好な水環境の再生

- 水位調査と適正な開放水面の確保
- 水質改善実験
- 水質調査

水質改善実験 | 水質調査

周辺とのネットワークづくり

- 関係機関との連携
- 各種イベント
- 広報活動
- 循環バスの運行

関係機関との連携 | 各種イベント

人と自然との持続的な関わりづくり

- 自然観察会と今後を担う人材の育成
- 自然観察園、自然観察コースの整備、管理
- 自然博物館、生き物・パネル展示、出前講座
- 利用に関するルール作りとその周知
- 風俗・風習の継承
- 清掃活動、美化活動 等

自然観察会 | 風俗・風習の継承

在来種の保全と生態系のバランスを保つ

- 埋土種子実験と埋土種子の里帰り
- 湿地の攪乱
- 火入れ実験
- ハスの保全
- 外来種の駆除
- 水田整備
- 表土保全
- 雑木の間引き
- その他生物調査

水田整備 | 湿地の攪乱

長期計画、将来構想

保全活用行動計画では、麻機遊水地だけでなく将来的には周辺部の山地や農地、川などの自然環境も保全しつつ、静岡流通センター、病院、学校などと連携し、**自立発展型の地域活性化**を目指していく。麻機遊水地ランドデザインの柱のキーワードである「自然」「健康」「交流」「憩い」「共生」「体験」をテーマに将来構想を描き、官民連携で地域活性化に寄与する取組みを進めていく。



■サイクリング等のレクリエーション体験

遊水地では、自然を活かした様々なレクリエーションやサイクリングなどが楽しめる。この自然を活かしたレクリエーションは、日常的なストレスからのリフレッシュ効果が期待される。

サイクリング | カヌー体験

■健康食の提供、ウォーキングによる健康増進

麻機のレンコンやネーブルなど特産品を活用した健康食を提供するカフェを設置することにより、食による健康増進、地場産品のPR効果が期待できる。

ウォーキング | 青空カフェ（駿府城公園）

■交流拠点となる地域振興施設の誘致

道の駅や地場産品、麻機ブランド製品などの販売所の設置を検討し、地域経済の活性化や、障がい者の雇用促進を図る。また、障がい者支援に関する情報センターとしても活用を図る。

コウワリの郷公園販売所（兵庫県） | 道の駅（宇津ノ谷峠）

■ガイドシステムの利用による共生社会の実現

病院の患者さんや市民がガイドを受けながら気軽に麻機の自然や歴史、文化などを学ぶことで、心のケアや地域への愛着心を育むことが期待できる。

観察会 | ガイドシステム

■農業体験等を通じた憩いの場の創出

公園内に整備された農園や休耕地を活用した農業体験を行い、農業を通じて、地域の農業や食文化、人の営みを学ぶ場として活用を図る。

農業体験 | 企業と連携した除草訓練